

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
”黄金の郷“いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”のメッセージをシリーズで紹介していく。

牛への思いを大切に努力あるのみ

千厩町小梨

尾形 幸希さん

牛への思い入れ

厳しい寒さに包まれた牛舎の中、白い息を吐きながら牛と会話をするようにブラッシングをしている尾形幸希さん。ブラッシングを受ける牛はリラククスした表情で、まるでそこだけ、日だまりの中に見えるように見えてくる。

酪農家に生まれ、幼い頃から祖父母を手伝い、牛と触れ合って育った。高校卒業後は、一度外に出たい気持ちもあったが、進路を考えるため自分を見つめ直したとき、何よりも牛への思い入れが強いことに気が付いた。





高卒後に就農。「気性の荒い牛の足がいつ飛んでくるかという不安でいっぱいだった」と初々しかった就農当時を振り返る。

学び、考え続ける日々

牛の体調に関わる大事な仕事の一つが餌やり。幸希さんは毎日、祖母の餌やりについて回り、熟練のノウハウを吸

収した。「祖父母は言葉で教えてしまえば簡単だが、背中を見て学び、考え、感じて欲しいと思っていたと思う」。祖父母から学んだことを基礎に、自らの考えを取り入れることも増えてきた。牛舎内の温度が暑すぎたり寒すぎたりすると乳量と乳質へ与える影響が大きい。そのため夏場は扇風機やミストを使って温度を下

家族で力を合わせて

「酪農は手を掛けた分、乳質と乳量に現れる。努力が報われた時はうれし

く、やりがいがある」と話す幸希さん。日々の管理を徹底し、さらに努力を続けてJA酪農部会乳質向上共励会で上位に入ることが目標。父の誠さんはJA畜産課に勤務していた経験があり、分からないことを相談できる頼りになる存在。これからも家族で力を合わせ、着実に歩みを進めていく。

——家族と力を合わせ、より良い牛づくりをしていきたい。そのために祖母から学んだことを忘れずに、自ら考える力と決断力を大切に、しっかりと自分のものにしていく。



PROFILE

尾形 幸希さん (30)

Kouki Ogata

千厩町小梨

1988年千厩町生まれ。藤沢高校卒業後、2007年に就農。現在、搾乳牛40頭、未経産牛20頭を飼養し、牧草13畝、ホールクローブ1畝を栽培。祖父母、父、母、妹、弟の7人暮らし。



私の一品

眼鏡

眼鏡が好きで、その日の気分によって選んでいます。トラクター作業時に日差しが強い時はサングラスを愛用。3本ともとても愛着がありお気に入りです。